

奄美大島で採集された ジャノメヌノサラシ (スズキ目：ハタ科)

萩原清司*

Grammistops ocellatus (Perciformes:
Serranidae) collected
from Amami Oshima Island, Japan

HAGIWARA Kiyoshi*

キーワード：ジャノメヌノサラシ, ハタ科, 奄美大島,
分布

Key words: *Grammistops ocellatus*, Serranidae,
Amami Oshima, distribution

はじめに

ジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus* は、ハタ科ヌノサラシ亜科ジャノメヌノサラシ属の1属1種の小型魚類で (Nelson, 2006), Schultz (1953) によりマーシャル諸島のビキニ環礁から得られた体長85.5 mmの1標本に基づき新属新種として記載された。本種はインド・西太平洋域の熱帯サンゴ礁域に分布するが、国内では沖縄県瀬底島から採集された1個体のみが知られる稀種である (片山, 1984; 瀬能, 2013)。

横須賀市自然・人文博物館および相模湾海洋生物研究会は、1989年より現在まで奄美大島周辺海域の魚類相を明らかにすることを目的に、現地での標本収集と横須賀市博物館魚類資料 (YCM-P) への登録作業を継続的に行っている。筆者は2013年から国立科学博物館が主催する「生物多様性ホットスポット」プロジェクトの研究テーマである「奄美大島およびその近海に出現する魚類の多様性と日本産固有魚類目録の作成」への参加により、横須賀市自然・人文博物館に収蔵された奄美大島産魚類標本の再調査を開始した。その中で奄美大島産の標本2個体を本種と確認したので、その形態について報告するとともに、標本採集時に観察された本種の生息環境について述べる。

なお本報告にあたり、現地での採集に協力いただいた横山貞夫氏および相模湾海洋生物研究会の諸氏、採

集事例について情報提供いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士、本プロジェクトへの参加の機会をいただいた国立科学博物館の松浦啓一博士、篠原現人博士、中江雅典博士に感謝の意を表す。

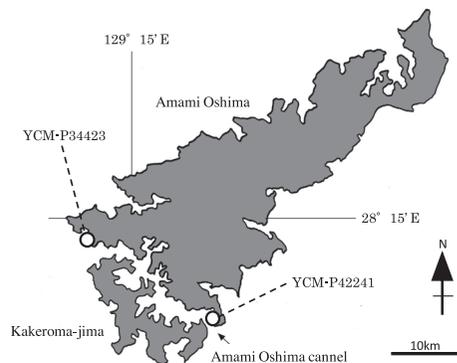
供試標本

YCM-P34423, 1個体, 標準体長77.44 mm, 採集日19940831(昼間), 鹿児島県大島郡瀬戸内町西古見(第1図: 28.2252N, 129.1770E), 水深9 m, 相模湾海洋生物研究会採集。

YCM-P42241, 1個体, 標準体長87.60 mm, 採集日20030916(昼間), 鹿児島県大島郡瀬戸内町蘇刈(第1図: 28.1138N, 129.3676E), 水深17 m, 萩原清司採集。

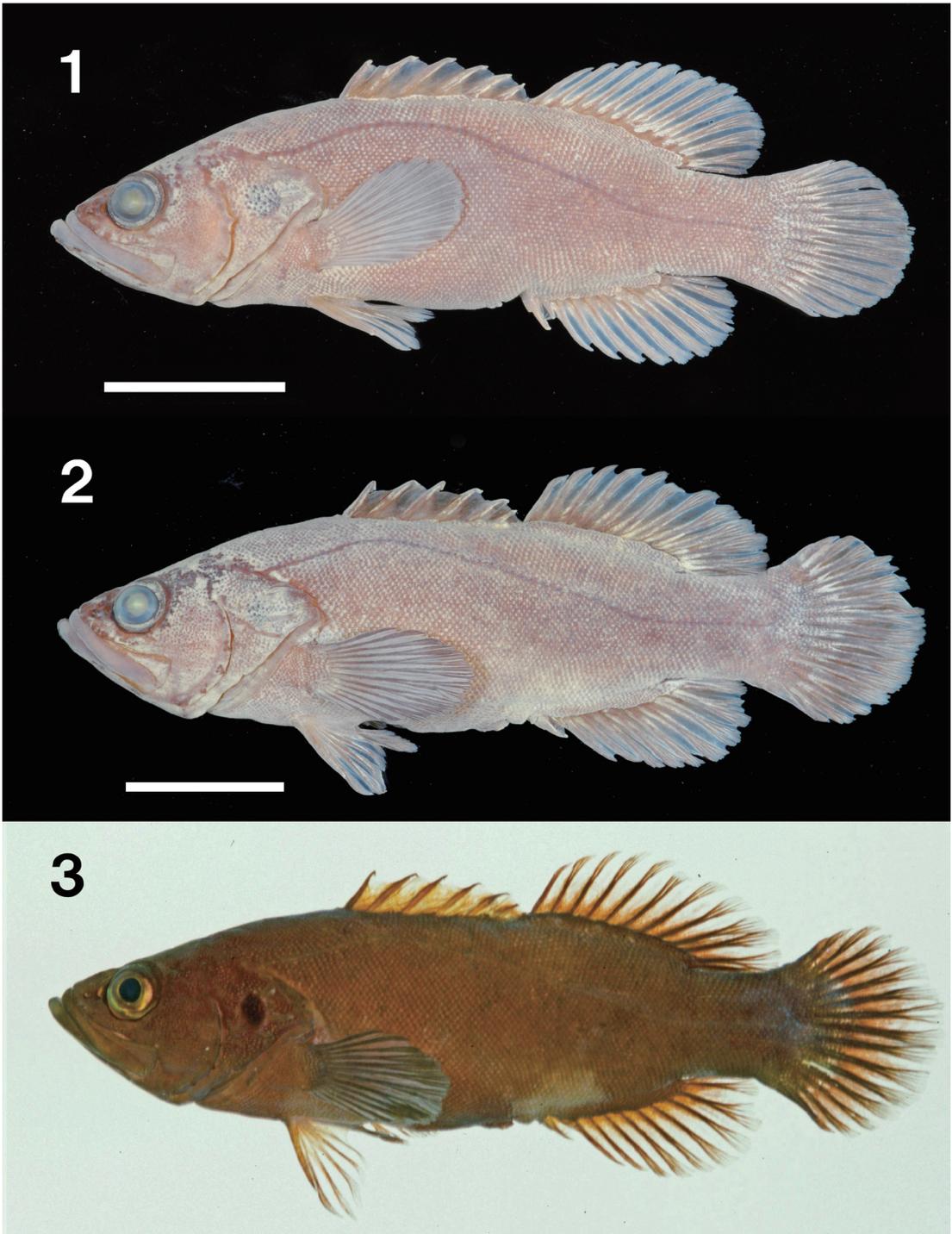
記 載

体は強く側偏した紡錘形で尾柄高は高い;口は大きく、上顎骨後端は眼の後端を超える;前鰓蓋骨に鋸歯はない;前鰓蓋骨に0~1本, 主鰓蓋骨に2~3本の棘を有する;背鰭棘と軟条部との間の欠刻は大きく, 背鰭をほぼ二分する;背鰭前方の棘は強く, 第3棘が最も長い;背鰭軟条は第8軟条で最も長い;臀鰭棘は強く, 第2棘で最も長い;臀鰭軟条は第6軟条で最も長い;側線は背鰭棘下方で上方に湾曲し, 後端は尾鰭基部に達する;尾鰭後縁は円い;鱗は細かく, 剥がれにくい;体表は粘液に覆われる(第2図)。



第1図 採集地点図。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95
原稿受付 2014年10月2日, 横須賀市博物館業績 691号。



第2図 ジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus*. 1, YCM-P34423 固定後. 2, YCM-P42241 固定後. 3, YCM-P42241 生鮮時. 図中スケールは20 mm.

供試標本の計測・計数値を以下に示す。標本計測は10%ホルマリン水溶液で固定した後に行った。

標準体長に対する比率% (供試個体間で差がある場合はYCM-P34423 / YCM-P42241で示す) : 全長124.9 / 124.3; 頭長38.8 / 37.7; 体高31.6 / 29.6; 尾柄高14.6 / 15.3; 尾柄長16.3 / 17.5; 吻長7.1 / 7.0; 眼径9.9/8.8; 上顎長18.5/17.3; 眼後頭長22.8/21.8; 背鰭棘部基底長28.5 / 26.0; 背鰭軟条部基底長23.1 / 24.0; 背鰭前方長42.3 / 40.7; 背鰭第1棘長7.6 / 7.4; 背鰭第8軟条11.2 / 12.9; 臀鰭基底長15.81 / 17.1; 臀鰭第1棘長2.3;

臀鰭第2棘長4.7 / 4.8; 臀鰭第6軟条11.2 / 12.9; 胸鰭長16.2 / 21.2; 肛門前方長50.5 / 54.4; 腹鰭前方長28.9 / 30.5; 尾鰭長17.0 / 18.4。

背鰭7棘-12軟条; 臀鰭3棘9軟条; 胸鰭15軟条; 腹鰭1棘5軟条; 尾鰭分枝軟条数8+7=15; 縦列鱗数94/90; 側線鱗数65; 背鰭始部~側線の横列鱗数10/11; 側線~臀鰭始部下方横列鱗数41; 脊椎骨数9+15=25。供試標本と、Schultz (1953) による模式標本および瀬能 (2013) との計測・計数値の比較を第1表に示す。

第1表. 供試標本の計測・計数値と模式標本との比較.

	計測値 (mm) ・ 計数値		計測値/体長 (%)		Holotype U.S.N.M. No-141871 (Schultz, 1953 より)	瀬能, 2013
	YCM-P34423	YCM-P42241	YCM-P34423	YCM-P42241		
全長	96.7	108.9	124.9	124.3	—	—
標準体長	77.4	87.6	—	—	85.5	110**
頭長	30.0	33.1	38.8	37.7	38.6*	—
体高	24.4	25.9	31.6	29.6	29.8*	—
尾柄高	11.3	13.4	14.6	15.3	14*	—
尾柄長	12.6	15.4	16.3	17.5	18.2*	—
吻長	5.5	6.1	7.1	7.0	7.8*	—
眼径	7.7	7.7	9.9	8.8	8.5*	—
上顎長	14.3	15.2	18.5	17.3	17.5*	—
両眼間隔	3.0	3.0	3.8	3.4	2.9*	—
眼後頭長	17.7	19.1	22.8	21.8	22.8*	—
背鰭棘部基底長	22.1	22.8	28.5	26.0	—	—
背鰭軟条部基底長	17.9	21.1	23.1	24.0	—	—
第1背鰭前方長	32.8	35.7	42.3	40.7	—	—
第1背鰭第1棘長	5.9	6.5	7.6	7.4	—	—
第1背鰭第2棘長	7.9	8.2	10.1	9.3	11.1*	—
第1背鰭第3棘長	8.2	8.2	10.6	9.4	—	—
背鰭第1軟条長	8.6	8.8	11.2	10.0	—	—
背鰭最長 (第8) 軟条長	12.4	13.0	16.0	14.9	16.3*	—
臀鰭基底長	15.8	17.1	20.4	19.5	—	—
臀鰭第1棘長	2.3	2.3	3.0	2.6	—	—
臀鰭第2棘長	4.7	4.8	6.1	5.4	4.7*	—
臀鰭最長 (第6) 軟条長	11.2	12.9	14.4	14.7	15.8*	—
胸鰭長	16.2	21.2	20.9	24.2	23.6*	—
腹鰭長	8.9	9.9	11.5	11.3	17.5*	—
肛門前方長	50.0	54.4	64.5	62.1	—	—
腹鰭前方長	28.9	30.5	37.3	34.8	—	—
尾鰭長	17.0	18.4	21.9	21.0	25.7*	—
背鰭棘条数	Ⅶ, 12	Ⅶ, 12			Ⅶ, 12	Ⅵ~Ⅶ, 12~13
臀鰭棘条数	Ⅲ, 9	Ⅲ, 9			Ⅲ, 9	Ⅲ, 8~9
胸鰭条数	15	15			14	14~15
腹鰭条数	I, 5	I, 5			—	—
尾鰭分枝軟条数	8+7=15	8+7=15			—	—
縦列鱗数	94	90			90	82~100
側線鱗数	65	65			—	58~67
背鰭始部~側線横列鱗数	10	11			—	—
臀鰭始部~側線横列鱗数	41	41			—	—
脊椎骨数	9+15=24	9+15=24			—	—

*計測値/体長の値 (%). Schultz (1953) では千分率 (%) で表記.

**最大個体の値 (mm). 瀬能 (2013) では (cm) で表記.

生鮮時の体色は一様に褐色。各鱗の鱗膜は基部で褐色、先端に向かって透明になる。虹彩は黒色で結膜は暗褐色～黄褐色。通常、主鰓蓋骨上に虹彩大～眼径を超える1眼状斑がある。Randall (2005) によると、稀にこの眼状斑を2個有する個体もある。

ホルマリン固定後の体色は褐色で眼状斑も残るが、体表に付着して剥がれにくい粘液は白濁してそれを不明瞭にする。

以上、供試標本の特徴はSchultz (1953) および瀬能 (2013) に示された標本の特徴と概ね一致し、ジャンメヌノサラシと同定された。

考 察

供試個体は、潮通しの良いサンゴ礁域の水深9～17mの洞窟もしくは岩穴内から採集されている。同水域には同様にサンゴ礁域の洞窟内を生息場所としているハタ科魚類のヤミスズキ *Belomoperca chabanaudi* Fowler & Bean, コスジハナスズキ *Liopropoma susumi* (Jordan & Seale), ヨコヤマハナスズキ *Liopropoma mitratum* Lubbock & Randallが分布する(萩原, 2001)。これら3種は比較的遊泳性が強く、水中では洞窟の天井面や入り口近くで遊泳または浮遊する姿を観察できる。これに対し、奄美大島で採集されたジャンメヌノサラシは日中、洞窟や幅50cm奥行2m程度の岩穴奥部の小さな横穴や転石の間隙といった非常に狭い空間に生息していた。このことから、本種は他の洞窟性小型ハタ科魚類と異なった生活様式を有し、より底生性が強い種であると考えられる。また一般に、洞窟性魚類は主として夜行性で、夜間には索餌のため行動が活発になることが知られるが、本種においても昼間に生息していた環境において十分な餌が得られるとは考えにくく、夜間には行動範囲を広げるものと推察した。

本報告における奄美大島からの採集記録は国内2例

目であり、本種の分布北限の記録となる(瀬能, 2013)。本種は、その体形と特異な眼状斑によって他種と容易に区別できるが、国内外ともに観察例は非常に少ない。その要因として、元来生息密度が低い種であること、洞窟の奥深くに生息していて発見しにくいこと、生息環境が十分に把握されていないこと、地味な色彩で一般のスキューバダイバーの興味を引きにくいことなどがあげられる。今後、洞窟や岩穴の奥部の詳細な調査やその周辺の夜間潜水による調査などを行うことにより、これまで本種が報告されていない琉球列島南部などでも分布が確認される可能性は大きい。

文 献

- 萩原清司 2001. 奄美大島から採集された日本初記録のヨコヤマハナスズキ(新称). *I.O.P. Diving News*, 8: 2-4.
- 片山正夫 1984. ヌノサラシ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑解説: 135. 東海大学出版会.
- Nelson J. S. 2006. *Fish of the World* (forth edition). 601pp. John Wiley & Sons, Hoboken.
- Randall J. E. 2005. *Reef and shorefishes of the South Pacific, New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands*. i-xii + 707pp. University of Hawaii Press, Honolulu.
- Schultz L. P. 1953. Grammistinae. In Schultz L. P., Herald E.S., Welander E. A. and Woods L. P. eds. *Fishes of the Marshall and Marianas islands*. Vol. I. Families from Asymmetriontidae through Signidae. *Bull. U. S. National Museum*, 202(1): i-xxxii + 1-685, 74pls.
- 瀬能 宏 2013. ハタ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索—全種の同定—第三版: 757-802. 東海大学出版会.